

*第一回 地域連携推進会議 議事録

進行:グループホーム サービス管理責任者 山浦
書記:田中

1.挨拶

グループホーム事業部部長 森川

2.参加者紹介(敬称略)

- ・グループホーム利用者 :1 名
- ・グループホーム利用者保護者:上記利用者以外の保護者 1 名、上記利用者の保護者 1 名
- ・民生委員 :1名
- ・利用者後見人 :社福)未来より2名
- ・グループホーム職員 :森川・山浦・田中・安斎・林

3.芝久保どろっぷすの紹介(ユニット:ケアホーム宙、芝久保どろっぷす)

- ・開所年月
ケアホーム宙 :2005 年 12 月
芝久保どろっぷす:2014 年 4 月
- ・利用者と日常生活について
ケアホーム宙・芝久保どろっぷすともに 4 名が生活介護、1 名が就労 B 型
休日は各利用者の状況に応じて、ホームで過ごす、ガイドヘルパーとの外出、ご実家へ帰省をしている。
ケアホーム宙の利用者 1 名は成年後見利用(ご実家なし)、1 名は親族の任意後見利用
芝久保どろっぷすの利用者は 1 名が成年後見利用開始
- ・支援者とその仕事について
日勤:居室含むホーム全体の掃除・洗濯、利用者の衣類管理・寝具管理など
遅番:夕食作り・提供・後片付けなど
夜勤:利用者の送り出し・受け入れ、衣類洗濯、入浴介助など夜間の直接支援全般

正規職員が主に利用者の金銭管理、私物消耗品の管理購入、利用者健康管理、食材・日用品の手配、関係機関との対応を行っている。

ここ最近の傾向として、非常勤スタッフのダブルワークが進み、急な休みに他の非常勤スタッフが対応できないため正規職員がフォローせざるを得なくなっている。

4.経営状況について

※詳細は 2024 年度グループホーム事業報告・収支状況表参照(こげら会 HP に公開)
今後利用者の高齢化に応じて、支援体制の変化に対応できるよう国の報酬申請を適宜行っていく必要がある。

5.事業継続計画(BCP)について

災害時についてはグループホーム内での籠城を基本とする(備蓄は 5 日分以上)
毎年立川防災館にて研修(消火訓練、AED・心臓マッサージ訓練など)を受講している。
昨年度はどろっぷすにて職員が都の感染症対策専門員による研修を受講している。

かつて宙の感染症発生時には感染拡大防止の観点から特定の 1 職員のみで 3 日 3 晩対応したことがあった。
その際は前ホーム長が食事準備など利用者に接しない形で短時間の補助を行った。

6.質疑応答、参加者からのご感想など

・BCPについて、災害発生時に他の事業者との連携は考えているか(未来)

→他の事業者との連携は現時点で考えていないが、意見交換は常時行っている。実際にそのような状況になったとしても体制上連携は非現実的ではないかと思われる。(森川)

・地域の方にグループホームの存在をアピールできる試みを今後をもっと積極的にしてほしい。(保護者)

→かつてケアホーム宙では夏祭りを開催し日中活動先の関係者や近隣住民が足を運んでくれた。

非日常の苦手な利用者への影響があったため今は行っていない。(山浦)

芝久保どろっぷすでは朝夕に日中活動先の送迎バスまでの徒歩移動で地域の方と関わる機会がある。

市民バスを利用して一人で日中活動先に通う方はその利用により他の乗客つまり社会との接点を作ることができる。(森川)

障害者への理解については、移動支援などを積極的に利用することで社会に出ていく機会を増やし、社会資源を利用することで地域に溶け込むことができると考えている。通院や買い物外出をする機会を増やすことで地域の方に知ってもらふ。それが結果として社会資源となる。(森川)

当法人では小金井市の公民館で開催された市民に障害者とのかかわり方をレクチャーする勉強会の講師を引き受けるなど意識的に促進を図る機会を設けている。(森川)

親の会の活動は各市で活動レベルが異なるが高齢化が進んでいる会もある。学齢期の親の参加が少ないように感じるが、女性の社会進出が進み母親が仕事の都合で参加が難しくなっているのではないかな。

役員や当番への負担を懸念していることも考えられる。(保護者)

→親の会は会が主催する事業者説明会などのイベントを行っていくことが必要であり、親同士の対面による交流は一定の効果がある。ピュアカウンセリングなどがあることを知っていただき学齢期の子を持つ親に参加を勧めている。卒業後の進路や行政サービスも紹介するイベントを西東京市の親の会で開催したが、関心が高く多くの親が参加する結果となり、親の会への参加を促進する効果があった。(森川)

小学校の支援級については支援級の先生に障害児の知識を学ぶ機会が必要と感じられる。先生が適切な支援が分からず子供が不登校になるケースもあり課題となっている。(森川)

普通級と支援級の交流として一部の活動と一緒にいる学校もある。普通級と支援級の児童生徒と一緒に修学旅行へ行くなどインクルーシブが進んでいる学校もある。(林)

親亡き後のことを考えるとグループホームの役割は大きいがグループホームは終の棲家になるのかならないのか家族としては心配している。(保護者)

→他のグループホームも同じことを課題と認識しており勉強会で取り上げられたこともある。利用者の医療的ニーズが許す限り住み続けていただきたいとどこのグループホームも考えている。(山浦)

日中活動施設の人事の入れ替わりが多く利用者が不安定になることがあるが、社会的な人手不足や福祉の労働環境が心配になることがある。(保護者)

マイナンバーに保険証を紐づけすると通院はどうなるのか(後見人)

→グループホームでのマイナンバーカードの保管は現状として難しい。必要に応じご家族や成年後見人からお預かりすることになる。健康保険証はあえて紐づけせずに保険証をグループホームで保管している方もいる。マイナンバーカードへの一体化は制度自体の今後の課題として残っている。(森川)

7.利用者の様子を PC の画像・映像で紹介

8.閉会